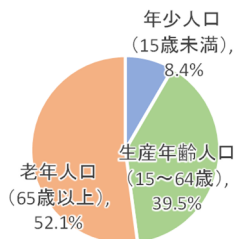


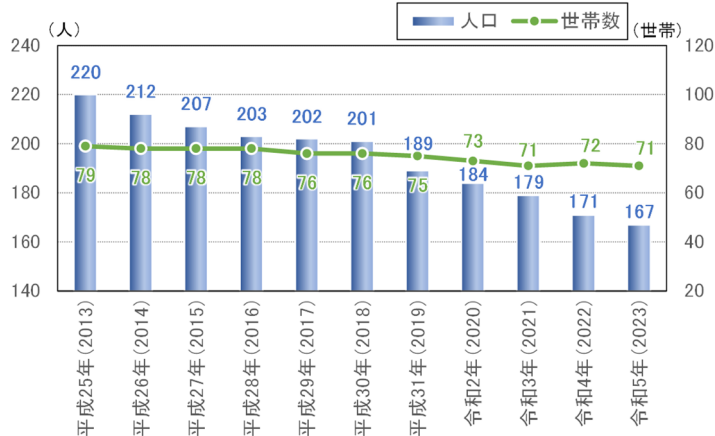
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	167人
世帯数	71世帯
高齢化率	52.1%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の南側を岸田川が北東に流れ、集落の中を国道9号(山陰道)が川に並走する。南西と南東に山が迫り、南側にわずかに田畑が開ける。

地名由来 「茅原」の当て字で、カヤ草を採取した土地であることによる。(『ひょうごの地名』(吉田茂樹著))

歴史等 鐘尾より一部の人が移り住み、それに他地区より移り住む人などもあって集落が形成されたという。岸田川を挟んだ対岸の尾根に戦国期の楠谷城跡があり、弘治3年(1557)の『但馬にしかた日記』から城主は千原村の地侍井上氏と考えられる。

近世の千原村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保11年(1726)からは幕府領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は149石余。

明治22年(1889)八田村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数102、人口は男293・女283。

これまで把握している文化財

文化財の件数 46件 (うち指定等文化財 1件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	1	26	0
		石造物	1		0
		工作物・その他の構造物	5		0
	美術工芸品	彫刻	8		0
		絵画	0		0
		工芸品	10		0
		書跡・典籍	0		0
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	1	1	
		音楽	0	0	
		演劇	0	0	
		工芸技術	0	0	
		その他の無形文化財	0	0	
		信仰の場	2	0	
		祭具	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	8	0
		その他の有形の民俗文化財	0		0
		年中行事・民俗芸能	1		0
	無形の民俗文化財	民俗技術	0		0
		食文化	0		0
		民間説話・俗信	5		0
		その他の無形の民俗文化財	0		0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	0	12	0
		古墳・その他の墓	6		0
		城館跡・寺社跡	4		0
		街道・古道等	2		0
		戦争遺跡	0		0
		その他の遺跡	0		0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0		0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
		河川・滝・溪谷・湖沼	0		0
		公園・庭園	0		0
		その他の名勝地	0		0
		動物・植物・地質鉱物	0		0
文化的景観	生活・産業・風土により形成された景観地		0	0	
			0	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等		0	0	



千原国道沿いの名号石・庚申塔・地藏尊



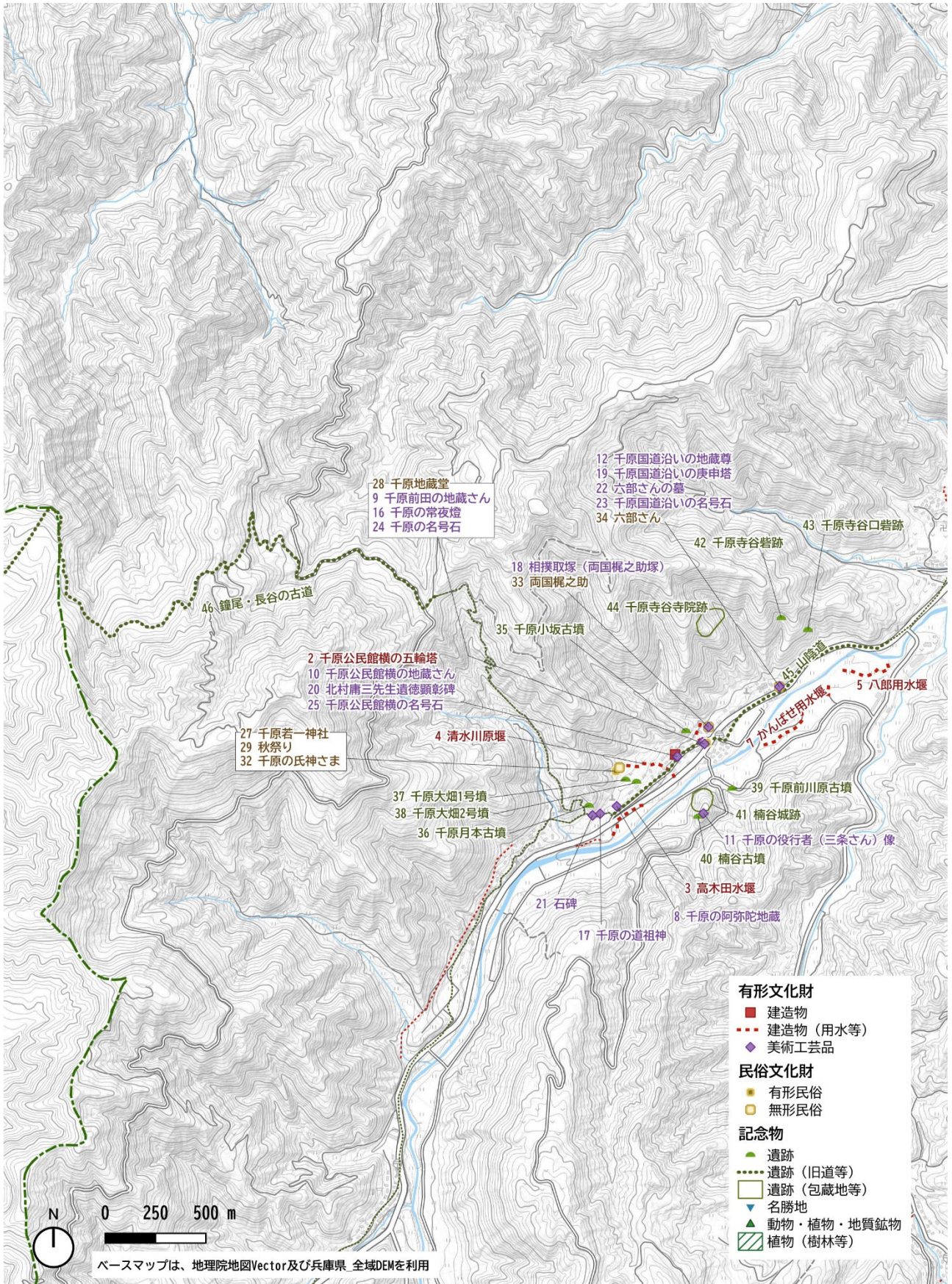
千原若一神社



千原若一神社 秋祭り

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

6-01 千原

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	北村家住宅	概要不明
石造物	2	千原公民館横の五輪塔	公民館横に地藏さんと名号石とともに祀ってある。
工作物・ その他の 構造物	3	高木田水堰	近世に築造された水路。水路延長 500m、灌漑面積 2.50ha。取入口は千原字月の木、排水口は岸田川。
	4	清水川原堰	近代に築造された水路。水路延長 200m、灌漑面積 1.00ha。取入口は千原清水川原、排水口は岸田川。
	5	八郎用水堰	近世に築造された水路。水路延長 1,000m、灌漑面積 1.50ha。取入口は飯野。
	6	ヤナセ用水堰	近世に築造された水路。水路延長 360m、灌漑面積 1.70ha。取入口は千原寺谷口 118、排水口は岸田川。
	7	かんばせ用水堰	近世に築造された水路。水路延長 800m、灌漑面積 7.00ha。取入口は千原市川、排水口は岸田川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	8	千原の阿弥陀地藏	80×65cm の石像。村上の旧道脇の墓地にある。寛政 2 年 (1790) 建立。損傷はみられない。「願主講中」と刻まれている。
	9	千原前田の地藏さん	60×40cm の石像。堂の内が一番高い所に祀られている。年代は不明。盆には奉納相撲が行われていた。
	10	千原公民館横の地藏さん	57×88cm の石像。公民館横の名号石と五輪塔とともに祀ってある。台座に「為両親菩提」と刻まれている。年代は不明。損傷はみられない。
	11	千原の役行者 (三条さん) 像	53×80cm の石像。楠谷入口右側の山頂にある。石で囲って祠をつくって祀ってある。道路横と頂上には石燈籠がある。損傷は見られない。文政 2 年 (1819) 建立。
	12	千原国道沿いの地藏尊	80×60cm の石像。村の下口の国道 9 号沿いにある。
	13	千原の薬師如来坐像	120×62cm の木像。千原神社の左側 (一段低い) に堂があり、堂は格子戸であり、その中央に一段高く厨子があり、その中に祀られている。塗りは落ち、光背の塗りもわずかしか残っていない。
	14	千原の阿弥陀如来立像	67×20cm の木像。村の上の墓地にあり、葬儀の野辺のお別れの時に拝む仏像で、小屋の中に祀っている。昭和 43 年 (1968) までは木像が祀られていたが盗難にあい、同年制作されたもの。損傷はみられない。
	15	千原の不立像	薬師如来坐像の裏側に置かれていた 2 体の木像。杉製のものは 95×22cm で虫穴が多く、傷みがひどい。樺製のものは 91×20cm で左足首がなく、右側につなががある。
工芸品	16	千原の常夜燈 (1843 年建立)	天保 13 年 (1843) 建立の太神宮の常夜燈。
	17	千原の道祖神	45×34cm の石碑。村の墓地の上の旧道脇に建てられている。自然石で小屋の中におさめられている。正面に「道祖神」と刻まれている。
	18	相撲取塚 (両国梶之助塚)	両国梶之助は宝永年間 (1704～1711) に亡くなった相撲取という。明治期までの小さな塚をこの土地の持ち主が造り直したものの。自然石に肉太の字で「両国梶之助塚」とあり、裏に宝永 5 年 (1708) の没年と「春山登雲信士」の字が刻まれている。手足の痛みを治してくれると伝わる。
	19	千原国道沿いの庚申塔 (1823 年建立)	文政 6 年 (1823) 建立。「青面金剛供養塔」と刻む庚申塔。

分類	番号	名称	概要
工芸品	20	北村庸三先生遺徳顕彰碑	千原公園に立つ北村庸三の遺徳碑。北村庸三は、明治33年(1900)、新温泉町千原に生まれた。若くして県議会議員・八田村長となり、国有林の開発や道路整備など、地域の人々のために努力を重ねた。昭和9年(1934)には、兵庫県洪水砂防協会連合会長として、室戸台風の災害復旧、河川改修などに力を入れた。その後も諸寄の二又川に砂防ダムを築くなど、地域の人々の生活を守るために尽力した。
	21	石碑(不明)	概要不明
	22	六部さんの墓	概要不明
	23	千原国道沿いの名号石	正面に「南無阿彌陀佛」と刻む。66×37×10cmの自然石碑。
	24	千原の名号石 (1815年建立)	文化12年(1815)建立。千原公園に立つ。正面に「南無阿彌陀佛三界萬靈」、右面に「文化十二亥 再建 傳藏」と刻まれている。115×50×30cmの自然石碑。
	25	千原公民館横の名号石	公民館横に地藏さんと五輪塔とともに祀ってある。正面に「南無阿彌陀佛」と刻んである。140×78×30cmの自然石碑。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	26	二方郡千原村鐘尾村山論 裁許状	共有山所有権をめぐり、鐘尾村と論争、豊岡奉行所に告訴し、その裁許状として貴重な資料である。千原、鐘尾山論は延宝5年(1677)の提訴が始まりと記しているが、これは豊岡藩に始めて訴えた年と考えるべきであり、千原村は、元禄15年(1702)には諸寄、宝永4年(1707)にも鐘尾と諸寄を相手取って訴え、同月付の裁許状(判決文)を受けている。将軍は五代綱吉の晩年で、豊岡藩主は二代甲斐守高住、裏書に城代家老として、大石りくの父、石東源五兵衛の捺印が見える。 町指定文化財

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	27	千原若一神社	祭神は伊弉諾命、伊弉冉命、素戔鳴命。創立年月は不明であるが、言い伝えによると、出雲国足日山より分霊を勧請したといわれる。寛文6年(1666)9月に社殿を再建した当時は、若一王子とっていたが、明治初年(1868)に若一神社と改称した。明治6年(1873)10月に村社となった。
	28	千原地蔵堂	千原公園に立つ。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	29	千原若一神社 秋祭り	9月19日に行われる。無病息災、五穀豊穡、家内安全などを祈願する。令和元年(2019)には8年ぶりに祭りの行事に小学生が参加し、榊を担ぐ若一会の皆さんと一緒に大きなかけ声を出しながら区内を歩いた。
民間説話・ 俗信	30	おとときたか	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p138 参照
	31	千匹狼	※『歴史の道調査報告書 第3集 山陰道』(平成5年、兵庫県教育委員会発行) p120 参照
	32	千原の氏神さま	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p40 参照
	33	両国梶之助	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p58 参照
	34	六部さん	※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p60 参照

6-01 千原

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	35	千原小坂古墳	古墳時代の古墳。畔の傾斜地に巨石が数個露出している。
	36	千原月本古墳	古墳時代の古墳。直径 15m 余りの円墳が水田造成の際に破壊。墳丘と石材が畦道に残っている。
	37	千原大畑 1 号墳	古墳時代の古墳。
	38	千原大畑 2 号墳	古墳時代の古墳。
	39	千原前川原古墳	古墳時代の古墳。
	40	楠谷古墳	縄文～平安時代の遺跡。古墳。城路の山頂に円墳があり、西側の石案内に役行者像が祀られている。
城館跡・ 寺社跡	41	楠谷城跡	中世の城館跡。急峻な山を利用した地侍クラスの「村の城」である。小曲輪群の存在から南北朝～室町期に築城起源を有し、戦国期に堀切・豎堀や豎堀によって補強・改修されたものである。『但馬国にしかた日記』（弘治 3 年（1557））には、千原村に「井上殿」「桑原ちふ（忠）衛門」が居住しており、城主は「井上殿」の可能性が高い。なお、主郭と帯曲輪の間には、山岳信仰の役行者像が祀られており、地元では楠谷城跡のことを「山上さん」と呼んでいる。
	42	千原寺谷砦跡	中世～近世の城館跡（砦跡）。郭・堀切（幅・深さ 6m）など小規模な施設である。
	43	千原寺谷口砦跡	中世～近世の城館跡（砦跡）。郭 2。山腹砦の居館か。
	44	千原寺谷寺院跡	縄文時代～中世の遺跡。中世の寺院跡。東西 50m、南北 31m の平地に石造物の一部などが散乱している。
街道・古道等	45	山陰道	古代山陰道のルートは、村岡から春來峠を越えて伊角・熊谷を通って井土に出て、その後、岸田川沿いを西へ向かい、蒲生峠を越えて因幡国に入るルートが有力と考えられており、ほぼ現在の国道 9 号に該当する。律令時代の官衙遺跡は井土に集中し、中でも古代山陰道の「面治駅」は竹田の面沼神社付近とされる。
	46	鐘尾・長谷の古道	鐘尾村と長谷村（鳥取県岩美郡岩美町）を結ぶ古道。

